

監 査 第 18 号  
平成 21 年 (2009) 5 月 15 日

出 雲 市 長 長 岡 秀 人 様

出雲市議会議長 山 代 裕 始 様

株式会社 出雲典礼

代表取締役 西 尾 理 弘 様

出雲市監査委員 勝 部 一 郎

出雲市監査委員 吾 郷 紘 一

出雲市監査委員 福 代 秀 洋

## 財政援助団体等監査の結果について (報告)

地方自治法第 199 条第 7 項の規定に基づく財政援助団体等監査を実施したので、  
同条第 9 項の規定により、その結果を報告します。

# 監査結果報告書

## 第1 監査の対象

株式会社 出雲典礼

平成19年度(2007)事業の運営状況

平成19年度(2007)事業の経理状況

## 第2 監査の実施期間

平成21年(2009)3月26日から同年4月24日まで

## 第3 監査の方法

今回の監査は、株式会社出雲典礼の決算書及び付属書類を基に、関係職員に対する事情聴取を行う等の方法により実施した。

## 第4 監査の結果

関係諸帳簿はいずれも証拠書類と適合しており、計数的には正確に処理されていることを認めた。なお、事務処理についてもおおむね良好と判断したが、若干見直しの必要な事項も見受けられた。

監査委員としての要望事項は、次の4点である。

1. 近年の営業状況は、黒字とは言うものの売上高、純利益、シェア共に年々下がり続けており、歯止めがきかなくなることが懸念される。既に様々な努力をされてはいるが、今まで以上に積極的なPR活動、営業活動を強力に推し進める必要があると考える。特に、旧出雲市以外の地域には出雲典礼の存在そのものが浸透していないと思われるので、出雲市(公)が出資する典礼業者として、情報の収集、サービスの向上等、一層の営業努力を望むものである。競争の激しい業界ではあるが、価格が安くサービスが良ければ、必ずや取扱件数も増加するものと考ええる。
2. 純利益を確保する上で最も大切なことは、少しでも仕入れ値の安い業者に納入させることである。現在は、返礼用品、花輪・生花、折・弁当などそれぞれ多くの業者が納品しているが、業者間で競争させ、安く納品できる業者があれば、その業者を優先して納品させるなど、1件当りの利益率向上を図られたい。
3. 事務処理規則第4条に定められた典礼用品等購入の専決事項については、総務部長の専決限度を超えて支払いされている事例が見受けられた。事務処理規則に違反することになるので、上位権限者の承認を得ておかれたい。
4. 納棺手当や夜間受付当番手当が、厳密に言えば給与規則の定めどおりに支給さ

れていない。勤務実態から判断して支給が適正妥当であれば、規則を改正した上で支給されたい。この際、規則全般を実態に合った運用しやすいものに改正する必要があると考える。

## 第5 決算の概要

### 〔会社の概要〕

株式会社出雲典礼は、安価な住民サービスを広く公平に提供する使命を担い、それまで出雲市営で行われていた典礼事業を市から引き継ぎ、平成5年12月に設立され、現在に至る。

そして、今日まで「安価で安心・公共奉仕」を経営理念とし、費用は安くサービスは最大限に提供し、少数精鋭ながら、まとまりをもって堅実な経営が行われている。

同社の資本金は1,000万円(100株)内600万円(60株)が市からの出資であり、他はいずれも農業協同組合300万円(30株)出雲商工会議所100万円(10株)である。

現在の組織体制は、代表取締役以下役員5名、監査役2名、従業員6名(内1名は嘱託)となっている。

### 〔事業の実施状況〕

- ・ 葬儀に関する業務。
- ・ 納棺、埋葬等の衛生処理業務。
- ・ 葬祭具、供花、供え物その他葬祭用品の販売並びに貸付。
- ・ 一般貨物自動車(霊柩車)運送事業。
- ・ その他上記各号の附帯関連する一切の業務。

### 〔会社の経営状況〕

今回の監査対象年度である平成19年度の収支は、売上総利益3,703万円から販売費及び一般管理費3,657万円を差し引いた営業利益が46万円で、これに営業外利益、特別利益を加え、法人税等差し引いた当期純利益が81万円となり、黒字決算となっている。収入の主なものは、返礼用品取扱収入(2,494万円)祭壇使用料収入(2,225万円)納棺用品及び附帯用品販売収入(2,103万円)であり、経費の主なものは、社員の人件費(2,779万円)広告宣伝費(164万円)及び車両費(141万円)である。

設立当初からの経営状況を見ると、平成10年度に売上高2億1,509万円、純利益2,004万円をピークに年々下がり続けているが、全年度で黒字決算となっている。

しかし、近年は全国チェーンの葬祭業者が市内に新規参入するなど、業者間競争が一段と激しさを増す中、市民ニーズも手軽な会館葬が増加するなど、会館を持たない出雲典礼にとって、今後の経営環境は非常に厳しいと言わざるを得ない。更なる営業努力が求められる。